

完了後の評価個表

整理番号	24
------	----

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	高知県
地域（地区）名	れいほくによど 嶺北仁淀	事業実施主体	県、市町村、森林組合等
関係市町村	いの町ほか9市町村	管理主体	県、市町村、森林組合等
事業実施期間	H23年度～H30年度（8年間）	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	本地区は、北西部を愛媛県、北東部を徳島県と接する県中部に位置する。北部には、石鎚山系の笹ヶ峰(1,860m)、瓶ヶ森(1,896m)、筒上山(1,859m)等の高峰群が連なり、急峻な地形を成している。 主な水系は、いの町の瓶ヶ森を源流として本地区を横断し、徳島県に流下する吉野川と、愛媛県から南東方向に流下し、高知平野に注ぐ仁淀川である。吉野川流域には、大森川ダム、長沢ダム、大橋ダム、そして四国の水瓶早明浦ダムが、また、仁淀川流域には、大渡ダム、筏津ダムがあり、豊富な水資源は、本県はもとより徳島県及び香川県の生活・産業に大きく寄与している。 本地区の森林の現況を見ると、民有林面積は136千ha、蓄積は63,352千m³であり、国有林を含めると区域面積の約85%を森林が占めている。その内、人工林面積は、97千ha(人工林率は約71%)であり、8齢級以上のスギ・ヒノキが91千ha(約94%)を占め、本格的な収穫期を迎えている。 これらの背景から、本地区では今後、森林資源の有効活用のための主伐・搬出間伐、主伐後の再造林、保育間伐等をバランス良く実施し、森林の多面的機能が確保された「健全な森づくり」を推進する必要がある。 このため、本地区では各市町村が策定した森林整備計画に基づき、水源の涵養や自然環境に配慮した森林整備を推進している。また、森林資源の適切な管理・利用の観点から、森林経営計画の作成エリア拡大を推進し、施業地の集約化を進め、高性能林業機械等による生産性の向上を図り、生産コスト低減及び間伐材等の有効利用拡大を目指している。 本事業では、効率的な森林施業の実施に不可欠な路網整備と、森林経営計画等に基づく保育間伐・再造林等の森林整備を実施したものである。 ・主な事業内容 <table border="0"> <tr> <td>森林整備</td><td>7,962ha</td></tr> <tr> <td></td><td>人工造林、下刈り、除伐、保育間伐、間伐、鳥獣害防止施設等整備、森林作業道開設</td></tr> <tr> <td>路網整備</td><td>7,631m</td></tr> <tr> <td></td><td>林道開設</td></tr> </table> ・総事業費 9,196,122千円(税抜き 8,599,228千円) (平成22年度の評価時点 総事業費 3,198,730千円)	森林整備	7,962ha		人工造林、下刈り、除伐、保育間伐、間伐、鳥獣害防止施設等整備、森林作業道開設	路網整備	7,631m		林道開設
森林整備	7,962ha								
	人工造林、下刈り、除伐、保育間伐、間伐、鳥獣害防止施設等整備、森林作業道開設								
路網整備	7,631m								
	林道開設								

① 費用便益分析の算定基礎となった要因の変化	令和6年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。 なお、事前評価で算出した総便益及び総費用と完了後の評価で算出した総便益及び総費用との差異については、事業実施期間の変更や事業実施期間内に新たに路網整備の計画を追加したことに伴う事業量の変動や費用便益分析で使用する単価の変化等によるものである。 総便益（B） 103,746,204 千円（平成22年度の評価時点 30,495,285 千円※） 総費用（C） 17,270,709 千円（平成22年度の評価時点 4,572,265 千円※） 分析結果（B／C） 6.01（平成22年度の評価時点 6.66※）
② 事業効果の発現状況	間伐等によって7,962haの森林が整備され、水源涵養、山地保全等、森林の有する公益的機能の維持推進が図られた。また、集約化を図り、列状間伐や高性能林業機械を使用することで、より効率的な作業が行われた。 また、林道の開設によって7,631mの路網が整備され、効率的な作業が可能となり木材が安定的に供給された。
③ 事業により整備された施設の管理状況	本事業で整備された森林は、森林経営計画に基づき継続して適切に管理されており、良好な管理状況にある。 本事業で整備された林道は、除草作業や路面整備等を適切に実施しており、良好な管理状況にある。
④ 事業実施による環境の変化	森林整備及び路網整備の実施により良好な森林が形成され、水源涵養、山地保全、木材等の林産物の安定供給等といった森林の有する多面的機能が発揮されている。
⑤ 社会経済情勢の変化	県内の林業就労者の減少幅は小さくなってきたが、依然として厳しい状況にあり、森林組合をはじめとする林業事業体等の事業規模も小さい状況である。こうした状況の中、林業の現場では、効率的で生産性の高い高性能林業機械を含む機械作業システムの導入が進められている。また、県内では大規模な木材加工施設やバイオマス発電施設等が稼働し、木材需要が拡大しており、今後木材の安定的な供給を通じて、ますます地域経済の振興に寄与していくことが求められる。
⑥ 今後の課題等	本県では、再造林、間伐を重点課題に位置付け、地域ぐるみでの再造林促進や間伐の推進に取り組んでいるところである。 今後、主伐期を迎える人工林が増加する傾向にあるが、経営規模は零細でかつ、林道等の基盤整備も十分でないことから、生産性の向上、労働強度の軽減及び生産コストの低下を図るための林業機械化、特に傾斜地の多い地形条件や樹種等に対応した機械化の導入や計画的な路網整備は重要な課題であり、併せて集約化に向けた対策を一層進めて行く必要がある。

	地元の意見： （高知県） 森林環境保全整備事業を実施することで、水源涵養、土砂流出防止、生物多様性の保全等、森林の有する公益的機能の発揮に寄与しており、今後も適切かつ持続的な森林整備が必要と考えている。
評価結果	必要性： 間伐等の森林整備を通じて、森林の有する公益的機能の発揮がされ、地域における水源地や土地の流出防止等に重要な役割を果たしており、事業の必要性が認められる。 効率性： 森林整備では、列状間伐や高性能林業機械による低コストで効率的な作業システムの定着を図ることができている。また、現地に即した路網整備により、植栽から保育までの作業効率が高まることで作業コストの縮減など、費用便益分析の結果から効率性が認められる。 有効性： 森林資源の現況や路網の整備状況を踏まえた計画的な事業の実施により、森林の有する多面的機能が向上し、引き続きその効果が継続されていることから、事業の有効性が認められる。

※平成 22 年度評価時点における数値については、消費税を含んだ数値である。

便 益 集 計 表

（森林整備事業）

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名：高知県

地域（地区）名：嶺北仁淀

（単位：千円）

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	33,722,128	
	流域貯水便益	9,369,422	
	水質浄化便益	28,871,512	
山地保全便益	土砂流出防止便益	19,233,077	
環境保全便益	炭素固定便益	4,740,418	
木材生産等便益	木材生産確保・増進便益	4,750,264	
森林整備経費縮減便益	森林整備促進便益	3,059,383	
総 便 益 (B)		103,746,204	
総 費 用 (C)		17,270,709	
費用便益比	$B \div C = \frac{103,746,204}{17,270,709} = 6.01$		

高知県（嶺北仁淀地域）森林保全整備事業計画（概要図）

